■清水喜助(2代)　　大工棟梁，建築家。横浜開港を機に西欧建築の様式を吸収，傑作を遺して，｛清水建設｝の祖となった。
しみずきすけ
・・・・・・1815＝　　越中国の井波で，小間物商藤沢家の次男に生まれる。名は清七。

井波は加賀藩の拝領地大工の伝統を持ち，この頃興隆期で，初代清水喜助の生誕地も近い。
水野忠成老中1818＝ 3歳：

ｼｰﾎﾞﾙﾄ鳴滝塾1824＝ 9歳：

幼少の頃から社寺建築に親しみ，大工を天職と思うようになり，

天保大飢饉始1833＝18歳：
_江戸に出て，大工棟梁清水喜助の弟子となり，宮大工の腕を鍛えられる。

大塩平八郎乱1837＝22歳：
適塾ｵｰﾌﾟﾝ・ 1838＝23歳：_親方に従い，焼失した江戸城西の丸の再建工事に参加，
蛮社の獄・・1839＝24歳：_完成後，清水家に入婿。

天保改革弾圧1842＝27歳：

阿部正弘首座1845＝30歳：

・・・・・・1848＝33歳：翌年にかけて，穴八幡の随身門の工事をしている。

尊徳報徳論・1851＝36歳：

ペリー来航・1853＝38歳：

_清水組は出入りの井伊直弼の周旋で，いち早く横浜に進出しているが，その横浜店を担当，

五ヶ国条約・1858＝43歳：_神奈川外国奉行所を請負い，
安政の大獄・1859＝44歳：_下田から移転した異人牢を建設。初代が急逝して跡を継ぎ，2代目を名乗る。その後も横浜に腰を据え，
桜田門外変・1860＝45歳：
遣欧使節・・1861＝46歳：*4人しかいない神奈川役所の"定式普請兼入札引受人"を拝命。

8月18日政変 1863＝48歳：江戸向島にある_三井組の守護神稲荷神社の社殿を完成して，番頭の三野村利左衛門に知られる一方，
材木商，金物の販売から貸家業，洋品販売店なども経営して，事業家として成長しながら，
_西欧建築様式の吸収に努め，
薩長同盟・・1866＝51歳：横浜新田北方製鉄所，
大政奉還・・1867＝52歳：神奈川ドイツ公使館を請負い，
明治維新・・1868＝53歳：*工事代金を立替えるなどして，アメリカ人の設計による「築地ホテル旅館」を完成。経営の傍ら，横浜居留地商館のうち6館を施工，次いで，政府から外国人応接所を受注，
戊辰戦争終・1869＝54歳：
資金融通の面で三井組の支援を受け，三野村の紹介で渋沢栄一の知遇も得，後，相談役になって貰う。
学問のすすめ1872＝57歳：_「三井組ハウス(第一国立銀行)」，
明治6年政変 1873＝58歳：
佐賀の乱・・1874＝59歳：_「為替バンク三井組」，

大久保暗殺・1878＝63歳：*「渋沢栄一邸」などを自ら設計，擬洋風建築と呼ばれる折衷様式の傑作を残し，

明治14年政変1881＝66歳：_火災で自宅が類焼，消火に努めて風邪をひき，体調を崩して，没した。

平凡社百科事典，「目でみる日本人物百科」，インターネット，